

診療の一部をご紹介します!

外科

急なお腹の病気も身体に優しい方法で治します



外科 医長
小泉 範明

外科では、俗に「盲腸」と言われる「急性虫垂炎」や主に胆石が原因で起こる「急性胆のう炎」、胃や腸に穴が空く「胃十二指腸潰瘍穿孔」などの急なお腹の病気の診療に力を入れており、これらの病気にスピーディーに対応することをモットーとしています。当院は時間を問わずいつでも緊急手術が行える体制が整っていますので、手術が必要なお腹の病気にも365日24時間体制で対応しています。

かつて緊急手術というとお腹を大きく切開する開腹手術が行われることが多かったのですが、当院では緊急手術においても小さな傷で治療を行う腹腔鏡手術を取り入れています。病気の程度によってはさらに身体の負担の少ない方法として「単孔式手術」も行っています(右図参照)。この手術はおへそ1ヶ所の小さな傷のみで手術を行う方法で、傷跡が目立たず満足度が高い方法です。急なお腹の病気に対しても身体に優しい治療を心がけておりますので、お困りのことがありましたらご相談下さい。



整形外科

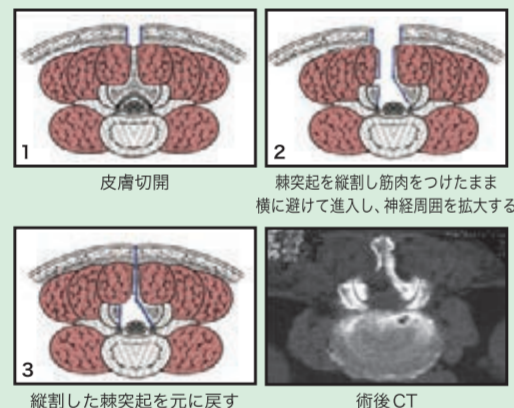
整形外科は骨折以外も治します

当科では、骨折などの外傷性疾患のほか、脊椎疾患、関節疾患の治療を積極的に行っています。まず保存的治療を優先し、効果が得られない場合は手術の治療を選択します。



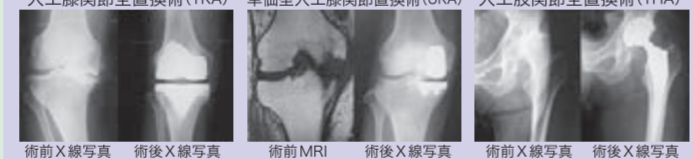
副院長 兼 整形外科 部長
景山 直人

脊椎: 高解像度顕微鏡を用いて体に優しい低侵襲手術を行っています。
腰部脊柱管狭窄症では、背筋を傷めることによる後遺症を防ぐため、棘突起を縦割して背筋を側方に避けて脊柱管に進入し神経周囲を拡大する除圧術(右図)を行っています。翌日より歩行開始し、2週間退院が目標です。



外傷: 急性期病院としてやはり骨折が多く、骨粗しょう症のある超高齢者では粉碎骨折となり治療に難渋する場合があります。内科との連携も重要です。

関節: 壮年期以後の肩関節痛の主な原因となる**腱板損傷**に対して関節鏡視下手術を行っています。従来に比べて低侵襲で術後の疼痛や筋力低下の少ない手術です。
股関節や膝関節の変形性関節症や**骨壊死症**に対する人工関節置換術(下図)も行っています。術後は十分なりハビリを行います。



小児科

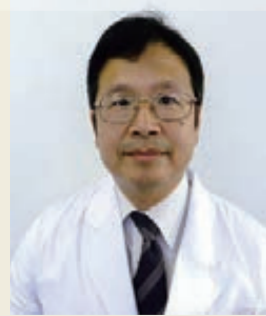
食物アレルギーの負荷試験をしています

食物アレルギーの負荷試験とは

アレルギーの原因となる食品を実際に少しずつ食べてみて、どれくらい食べれば症状がでるかを調べる試験です。今までは、食物アレルギーがあるお子さんは原因の食品を完全に食べないようにすることが一般的でしたが、最近では負荷試験で安全に食べられる量を確認し、少しずつ食べるようになってきました。

負荷試験の方法

原因の食品を少量から少しずつ増やして、数回に分けて食べてもらいます。もしアレルギー症状がでたら薬を投与して対応します。検査のあと数時間たってからアレルギー症状がでる可能性もあるため、原則的に入院で検査しています。検査の希望がありましたら、午前中の外来を受診してご相談ください。ご不明な点があれば、小児科までお問い合わせください。



小児科 部長
眞名 真之



※重篤な症状を伴う全身性の急性アレルギー反応が起きる場合があるので、必ず医療機関の指導のもと行ってください。
※アレルギーが重症の場合、高次医療機関での検査をおすすめすることがあります。

産婦人科

当院はウロギネコロジー専門施設です!

ウロギネコロジーとは

ウロギネ(ウロギネコロジー)とは泌尿器科と婦人科の境界に位置づけられる新しい診療分野です。当院の産婦人科は全国でも数少ないウロギネ専門施設として、骨盤臓器脱と尿もれに精力的に取り組んでいます。



骨盤臓器脱とは

女性の骨盤内臓器である子宮や膀胱が下がり、股の間から外に脱出する病気です。朝起きたときは症状がありませんが、長時間立っていたり外出したりするとだんだん脱出して、何かを挟んだ違和感・尿の勢いが悪い・尿が近いなどの症状に悩まされます。誰にも相談できず、何科にかかったらよいか悩んでいるうちに病気が進むこともあります。これらの症状に心当たりがある方は一人で悩まず、当科外来を受診することをおすすめします。また、尿もれの治療も実施しています。せきやくしゃみでの尿もれは1泊2日の手術治療ができます。さらに当科では、子宮筋腫・卵巣腫瘍などの良性腫瘍に対して体に負担の少ない腹腔鏡手術にも積極的に取り組んでいます。



産婦人科 部長
草西 洋



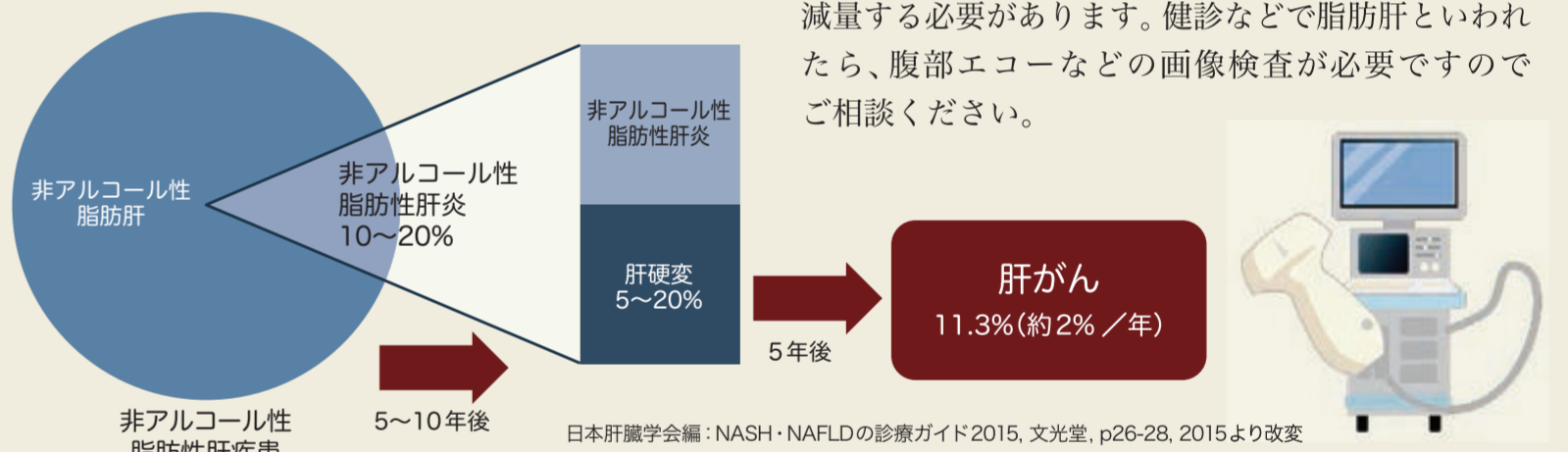
消化器内科

本当はこわい脂肪肝

肝臓は肝硬変や肝がんになってもほとんど症状が出ないことから「沈黙の臓器」といわれています。こわい病気を防ぐためには自分で早めに肝臓病だと気付くことが重要です。生活習慣病である脂肪肝も肝臓病のひとつです。なかでも「たちの悪い」非アルコール性脂肪性肝炎(NASH=ナッシュ)がこわい病気として注目されています。お酒を飲まない人や若い女性でもかかります。NASH患者の5~20%が肝硬変になり、その後の5年で約11.3%が肝がんになりますので、甘く考えずに真剣に減量する必要があります。健診などで脂肪肝といわれたら、腹部エコーなどの画像検査が必要ですのでご相談ください。



消化器内科 副部長
村松 哲



脳神経外科

頭痛外来について

頭痛の原因

脳卒中や脳腫瘍などの怖い病気もありますが、原因の特定できない慢性頭痛も多く、CTやMRI検査などに異常がない場合には「単なる頭痛」や「心配ない頭痛」として投薬をされることが多いようです。

頭痛外来とは

頭痛外来はまず心配な原因などがなければ検査し、原因のある場合には元の病気の治療を行います。原因のない頭痛(一次性頭痛)では、頭痛の診断とその対処方法について相談しています。

一次性頭痛の治療

片頭痛のことが多く、まず片頭痛についてよく理解してもらい、適切なタイミングで内服をして頭痛回数を減少させます。

片頭痛は治らないのか

完全に治すということは困難です。でも生活習慣の指導・予防薬の投与・適切な内服の使用などにより回数を減らすことができ、日常生活に支障のないように上手に付き合う方法を考えていきます。「たかが頭痛くらいで…」と思われがちでもいろんな不安なことがあります。適切な知識と治療で過ごしやすくなります。



副院長 兼 脳神経外科 部長
齋藤 実

頭痛ダイアリーをつけて自分の頭痛のことをよく知ろう



薬を飲み続けて大丈夫?